

2018年6月18—24日

インドネシア スラカルタ市
『障害者支援団体に対する障害児用中古車椅子供与による福祉政策向上への支援』
引き渡し式ほか 活動報告書 秋子孝男 記

スラカルタ(通称ソロ)市を中心とする中部ジャワ州8県の障害をもつ子どもたちへ車椅子を届ける活動は2013年150台、2016年180台に続き3度目160台、累計で490台の供与を実現することができた。

2013年、2016年事業時からの現地内容は、この中部ジャワ州8県で約4,500名の子どもたちに車椅子の利用が有効であり、利用機会を待っているとの報告であった。現地カウンターパート CBR-DTC ソロは長い CBR 活動の歴史をもつ団体であるが、Maman 理事長以下24人の有給スタッフを有し、各地域での行政側ソーシャルワーカーとも連携しながら活動を続けている。特筆すべきは Maman 氏は現ジョコ・ウイドド大統領がスラカルタ市市長時代からの知己をもっており、本年より週の大半を大統領府の福祉政策立案スタッフとしてジャカルタで働いているとのことであった。2019年4月の総選挙に向け多忙で、スラカルタ市での活動実務は Mr.Christian プロジェクトマネージャー中心で展開され、週末にスラカルタで種々活動の進捗確認を取り合っているとのことであった。

今回の現地訪問には長年の会員である O 会員が車椅子を利用する M 君を帯同のうえ参加された。スラカルタ市、スラゲン市などの行政機関表敬訪問、家庭訪問をこなし、小さな子供をもつ現地のお母さんや保護者が、長旅にも関わらず元気な M 君の笑顔、お母さんの強さに深い感銘を受けていることをつよく感じた。

ジャカルタ乗換えスラカルタ市への車椅子利用の旅。成田空港スタッフ談では内外から一機でも20~30人の車椅子利用者団体の例もあるとのこと。左写真は外輪を取り外すと内輪巾が機内でも使えるタイプ。右写真は現地で機内用から持参の車椅子に乗り換えるシーン。巨大なジャカルタ空港での構内電車利用を含め現地航空会社のエスコートは行き届き、手慣れていた。



CBR-DTC ソロの事務所プロジェクト打合せ。4月に新事務所に移転したばかりであった。車両には EU 連合、多国籍のキリスト教系社会福祉団体 cbm のロゴがあり、同団体の広範な福祉活動に対して主要ドナーの役割を継続している。



スラカルタ市社会福祉局長 Ms.Rohana の下行われた引渡式会場（6月20日）。
下段 2 枚はスラゲン市社会福祉局 Mr.Supriyanto 氏を表敬訪問。全 2 回の贈呈を通し子ども用車椅子が大変有効であることを自覚されており、感謝の言葉があった。



引渡式、家庭訪問での子どもたちと交歓風景

ガブリエル君 6 歳



マーシャル君 12 歳



ファキエル君 8 歳



シートフィッティング法を伝える O 会員



ステップの高さ調整



ロハディ君 12 歳



シンディちゃん 13 歳にもフィッティング、日本からの文房具で気を惹く？ M 君



ライリーちゃん 7 歳



近所の友達と一緒に



早くも自走で庭にでることを覚えた！！



リラナちゃん 4 歳半



現地スタッフの薦めで、近くの世界遺産
ヒンドゥー教のプランバナン寺院群に立ち寄った。



(本プロジェクトは外務省日本NGO連携無償資金協力事業です)

以上